

## 施策マネジメントシート

基本施策名	15 コミュニティ活動の促進	施策統括課	生活コミュニティ課	氏名	村山幸浩
政策名	51 地域・安全	主な関係課	福祉総務課、高齢者支援課、地域包括ケア担当、子育て支援課		

### 1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか) \* 人や自然資源等  
 自治会、町内会  
 市内空き家(一戸建、長屋及び2階建て以下の共同住宅)  
 市民

### ② 施策の目的

市内のコミュニティ(自治会・町内会・地域における共同体)との協働の下、地域の課題解決を図るとともに外国人市民が地域で孤立することなく受け入れられ、相互交流できるまちを目指す。

### ③ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	自治会・町内会数	団体
イ	空き家候補棟数	棟
ウ	在住外国人数	人
エ		

### ④ 成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

	名称(展開方向ごとに記載)	単位
1	ア 自治会・町内会加入率	%
	イ コミュニティ施設利用者数	人
2	ア 適正管理空家率	%
	イ	
3	ア 住んでいる値域で不便なく生活できている外国人の割合	%
	イ 外国人市民懇談会参加人数	人
4	ア	
	イ	

### 2 第1次基本計画期間(平成28~35年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 地域コミュニティの活性化	地域コミュニティにおいて重要な役割を担う自治会・町内会の組織や活動を維持・強化し、コミュニティ力を高めるとともに、これらの組織が地域で積極的に活動する場を整える。	①防災・防犯など、生活に役立つ情報を自治会・町内会に提供する。 ②多様な主体の協働による取組や地域資源(人材・物資・資金・情報)を効果的に活用したコミュニティ活動を促進する。 ③地域の諸問題解決に向けた事業の計画立案や実施、評価、改善等に地域住民が主体的に参画できる仕組みを作る。 ④活動拠点となるコミュニティ施設の機能を充実する。
2 空家の適正管理と活用の推進	地域における空家化の未然防止、空家の解消、空家の適正管理を実現するとともに、空家の有効活用を目指す。	①空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、計画策定、調査、個別対応など空家対策を総合的、計画的に推進します。 ②空家のデータベース化を進め、有効に活用できる仕組みづくりを進める。
3 多文化共生社会の実現	外国人市民が快適に生活できる環境を整えるとともに、日常的に外国人市民と交流することにより、相互理解を進める。	①外国人市民の日常生活におけるニーズを把握・共有するため、外国人を含めた市民と行政による意見交換の場を設ける。 ②地域の国際交流団体や大学等との連携を図り、国際理解・協力活動を支援する。 ③地域の国際交流団体や一橋大学等と連携した懇談会・講座・レクリエーションなど、在住外国人と市民が交流する機会をつくる。
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	目標達成度		
対象指標	ア	団体	見込み値 実績値		71 73								達成・ 未達成	前年度 比較	
	イ	棟	見込み値 実績値		210										
	ウ	人	見込み値 実績値		1,314 1,399	1,509									
	エ		見込み値 実績値												
成果指標	展開方向1	ア	%	成り行き値			30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	未達成	低下	
				目標値	33.5	34.4	35.2	36.1	37.0	38.3	39.5	40.8			42.0
		実績値	32.2	25.0											
		基本計画における 指標の説明又は出典元		自治会・町内会加入率/全世帯数											
	イ	人	成り行き値			170,000	169,000	168,000	167,000	166,000	165,000	164,000	未達成	低下	
			目標値	182,587	186,940	191,294	195,647	200,000	202,500	205,000	207,500	210,000			
	実績値	174,983	172,556												
	基本計画における 指標の説明又は出典元		コミュニティ施設利用者数												
	展開方向2	ア	%	成り行き値										未達成	
				目標値		86.4	87.6	88.8	90.0	91.3	92.5	93.8	95.0		
		実績値		55.7											
		基本計画における 指標の説明又は出典元		適正管理空家率											
	イ		成り行き値												
			目標値												
	展開方向3	ア	%	成り行き値										未達成	低下
				目標値	64.9	66.2	67.4	68.7	70.0	72.5	75.0	77.5	80.0		
実績値		63.6	-												
基本計画における 指標の説明又は出典元		住んでいる地域で不便なく生活できている外国人の割合													
イ	人	成り行き値			40	40	40	40	40	40	40	未達成	低下		
		目標値	48	49	56	63	70	78	85	93	100				
実績値	42	20													
基本計画における 指標の説明又は出典元		外国人市民懇談会に参加した人数													
展開方向4	ア		成り行き値												
			目標値												
	実績値														
	基本計画における 指標の説明又は出典元														
イ		成り行き値													
		目標値													
実績値															
基本計画における 指標の説明又は出典元															
事務事業数		本数		5											
施策コスト	事業内 財源	国庫支出金	千円		7,198										
		都道府県支出金	千円		23,900										
		地方債	千円												
		その他	千円		5,513										
	一般財源		千円		61,261										
	事業費計(A)		千円		97,872	0	0	0	0	0	0	0	0		
	人件費	延べ業務時間	時間		9,441										
		人件費計(B)	千円		29,406										
トータルコスト(A)+(B)		千円		127,278	0	0	0	0	0	0	0	0			

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)~E(かなり低下)

C:成果はほとんど変わらない(横ばい状態)

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い)~E(かなり低い)

D:他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である

※背景として考えられること

- ①地域における人々のつながりの希薄化、市民生活や価値観の多様化がある。
- ②自治会加入率は、各自治会等からの調査結果に頼らざるを得ない現実があり、数値自体に信憑性が欠ける要素も含まれる。
- ③外国人市民の増加やニーズに対する行政の対応の課題。

**5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載**

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

- ①地域のつながりの希薄化、市民生活や価値観の多様化、少子高齢化の進行などにより、自治会・町内会の加入率は減少傾向にある。
- ②高齢化が進む中で独居高齢者や高齢者のみの世帯が増えていることから、孤立化防止のため地域での見守りが求められている。
- ③コミュニティ施設については、19施設のうち、施設の設置目的や所在などの理由から利用率の違いが生じる現実がある。
- ④平成27年5月に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が全面施行された。空き家については、増加傾向にあるものと推測する。
- ⑤多文化共生のまちづくりには、コミュニケーション支援、生活支援及び多文化共生の地域づくりが必要である。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ①自治会、町内会関係者からは、加入者数の減少、役員等の担い手の不足、防災・防犯活動が不十分といった諸課題を解決するための方策が求められている。
- ②空家が近隣に及ぼす影響が大きいため市民からの苦情等が寄せられている。
- ③日常時や災害時の支援体制を求められている。
- ④外国人市民と市職員の懇談会は市議会議員の提案によるものである。

**6 28年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載**

(1) 施策の取組状況

28年度の取組状況	29年度の取組予定
①地域コミュニティの活性化 ア) 自治会連絡会の開催 イ) 高齢者見守り、災害時要支援者避難支援事業の実施 ウ) 地域福祉コーディネーター(csw)の配置 ②空き家等実態調査の実施 ③多文化共生 ア) 各種支援事業(情報提供、相談窓口の開設、にほんご子育てサロン、日本語講座、防災連絡会、小中学校への日本語指導員の派遣) イ) 交流事業(国連大学研修生の市内ホームステイ、小中学生による大使館訪問) ウ) 外国人市民と市職員の懇談会	地域福祉コーディネーター(csw)を増員し全地域に配置した。 災害時要支援者避難支援事業の実施団体を増やす。 空家等対策計画の策定。

(2) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※必要に応じて展開方向ごとに記載  
総合基本計画及び28年度行政経営方針に照らして評価する

- ①地域コミュニティの活性化  
地域福祉コーディネーター(csw)の全域配置など地域コミュニティの活性化に結び付く取組みは前進した。
- ②空き家等実態調査の実施  
今後、調査結果を踏まえ具体的な空き家等対策を進めていく。
- ③多文化共生  
引き続き各種事業を展開し、多文化共生のまちづくりを進めていく。

**7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載**

(1) 30年度の取組方針

地域コミュニティの活性化、空き家の適正管理と活用の推進、多文化共生社会の実現に向けた取組のさらなる充実を目指す。  
地域コミュニティの活性化により、社会的孤立の防止を図る。

(2) 中期的な取組方針

地域コミュニティの活性化、空き家の適正管理と活用の推進、多文化共生社会の実現に向けた取組のさらなる充実を目指す。  
地域コミュニティの活性化により、社会的孤立の防止を図る。